

老人保健施設やすらぎ事務主任

金澤邦芳さん（七十代）

あつという間に水が流れ込んできた

台風一九号、南東からかつてない猛烈な台風が十二日夜半に日本列島を襲いました。当施設は二階建ての建物ですから、まずは一階の利用者を早めに二階に避難させた方が良いのではないかとということで、午後二時に一階の利用者を全て二階に運びました。

久慈川が氾濫したのが午後八時頃、駐車場にじわじわと押し寄せてきたのが十一時半頃。夜勤者が「二階から駐車場見たらどんどんどんどん水が流れてきました。二十分ぐらい。あつという間ですよ。施設の中に水が流れ込んできちゃいました。恐ろしくなりました」とついでに夜の夜勤の職員が言っていました。それから浸水した時点で停電になっちゃいました。エレベーターも使えなくなり、それから階段や通路にあるドアが水圧で動かなくなり、それでだいぶ職員がおつかなくなっちゃったって言ってましたね。それで、うちの方のいろんな受電設備の機器が水没しちゃったんですね。それで停電になった。それから受水ポンプも浸水しちゃいまして、使えなくなつて水が供給できない。電気も供給できない、水も供給できないで、あらゆるものが不足していつて。

早めの避難が重要

利用者には幸い人的被害がありませんでした。早めに避難させた方がいいです。夜中の夜勤者は四名しかいませんから、避難が遅れてたら人的被害が出たんじゃないかっていう大変な思いをしました。いつも言われることですけど、早めの避難、これはなかなか決断できない。もう少しもう少しってこう思うんですけども、雨はまだ降っていないときにね、避難してそれで早く行っちゃつたらなんだつてなっちゃうんですけど、うちは万が一のことを考えて早めに二階に利用者を移動させたおかげで人的被害はありませんでした。

それから建物被害はですね、うちの方の施設は鉄骨のコンクリートでかなり頑丈にできていたものですから、建物被害は少ないです。ところがですね、一階部分のいろんな設備機器は、壊滅状態ですね。ベッドから高齢者の入浴設備、そういうもの使えなくなっちゃいました。冷蔵庫、電気設備、電気関係のパソコンプリンター全滅です。車も一回水に浸かったら使えなくなっちゃいますし、これには私も職員もパニック状態になりました。もうどつから手をつけていいかわからないというような、大変な思いをしました。

人的被害がなかったのはやはり早めの避難。職員が多い日中の避難。これが今回の一番の大きな要因です。



避難させたベッド



被災後の施設内